

【演題名】：脳梗塞後、気付きの希薄化により着衣の乱れを呈した一症例

【氏名】：○宮崎 太郎（みやざきたろう）、宮崎 花子（みやざきはなこ）

【所属】：□□病院

【キーワード】：脳梗塞、前頭葉機能障害、気付きの希薄化

【概要】：今回、脳梗塞後の前頭葉障害により生じた気付きの希薄化により着衣の乱れを呈したと思われる症例を経験したので報告する。症例は60歳代の女性、2か月前に前頭葉背外側領域に脳梗塞を発症した。患者のHopeは在宅復帰である。理学療法評価では、身体機能・認知機能に問題はなかったが、高次脳機能検査およびADL評価の結果、着衣の乱れが問題点として挙げられた。前頭葉機能障害を補完するための先行研究では、メモやスケジュールおよびTo-Do Listを記載するメモリーノートが奏功した例が報告されており、本症例に対してメモリーノートを用いた介入を行った。経過は、介入開始時点ではセラピストの介入のもとメモリーノートの記載は順調に進んでいたが、介入3日後に症例自身での作成に移行したところ自己による継続が困難であった。本症例との面接を行うと、メモリーノートを活用するうえで重要となる自己への気付きに欠け行動継続に移行させることができなかつたため、メモリーノートを用いた介入の継続が困難であったと考えられた。本症例のように自己への気付きが欠ける症例に対する介入にはどのような方法があるのかアドバイスを頂き、今後の臨床に活かしていきたいと考える。

【倫理的配慮】本介入を行うにあたり、ヘルシンキ宣言を遵守し、目的・内容について十分な説明を行い、書面にて同意を得た。開示すべき利益相反はない。